いなば西郷 工芸の郷 ミニフォーラム Vol.6

Photo: Daisuke Bundo

映画「からむしのこえ」上映会・講演会

からむしのこえ

時間：92 分
制作年：2019 年
監督：分藤大翼
撮影、録音：春日 聡、分藤大翼
編集：分藤大翼
題字：華雪
制作：大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館

日時：2021 年 2 月 20 日（土） 13:30～16:00（開場 13:00～）

会場：西郷地区公民館 ／ 入場無料・電話予約制（定員 50 名／ご予約先は裏面をご確認ください）

新型コロナ感染拡大の状況により、中止・延期等の可能性があります。悪しからずご了承ください。

からむしがつなぐ伝統とものづくり

福島県の山間に、数百年前から「からむし」を栽培してきた村がある。奥会津昭和村。『からむしのこえ』は、この昭和村を舞台に、からむしと共に生きる人たちを描いた記録映画である。村人は田畑を耕し自給生活を営むなかで、からむしという植物を育て、繊維を取って糸をつくり、布を織る暮らしを今もなお続けている。

「からむしだけはなくすなよ」。

先人の想いは、親から子へ、子から孫へと伝わり、その技術は大事に守り継がれてきた。長い冬の間深い雪に閉ざされる昭和村の人たちにとって、からむしは貴重な換金作物であるとともに、心の支えでもあったという。

女性たちの手は魔法のようにキラ（光沢）のある上質な繊維を生み出していく。栽培から糸づくり、織りに至るまですべての工程を昔ながらの手作業で行うため、帯や着物の完成には、糸づくりだけでも数カ月、織り上がるまでには1年以上もの時間がかかる。根気のいる大変な仕事だが、映画のなかで語られるつくり手たちの言葉や笑顔には、からむしへの愛情と誇りが満ちあふれている。豊かな幸せとは何か――。昭和村のやさしい暮らしの風景は、生きるうえで大切な何かを教えてくれるだろう。

講師

分藤 大翼
Daisuke Bundo
映像人類学者／信州大学准教授

1972 年大阪府生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。1996年よりカメルーン共和国の熱帯雨林地域に暮らすBaka（バカ）という狩猟採集民の調査研究を行なう。主な映像作品のひとつ、『jo joko』は 2013 年にセルビア共和国で開催された第 22 回国際民族学映画祭においてUNESCO南東ヨーロッパ無形文化財保護地域センター特別賞を、2017年にフランスで開催された映画祭 Les Rencontres du cinéma documentaire で観客賞を受賞している。『からむしのこえ』（2019年）は国内で制作した最初の作品である。主な共著は『森と人の共存世界』（京都大学学術出版会）、『見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ! ―映像人類学の新地平―』（新宿書房）他 。

いなば西郷 工芸の郷 ミニフォーラム Vol.6

からむしについて

からむし（Boehmeria nivea var. nipononivea）はイラクサ科の多年草で、苧麻（ちょま）、青苧（あおそ）とも呼ばれる。国内のからむしは中国大陸から伝わったとされており、縄文時代から利用されていたことが分かっている。昭和村のからむし栽培は、水はけの良い肥えた畑に、根から取り出した苗を植えるところから始まる。３年目以降、からむしは５月から７月にかけて２メートル近くにまで成長する。刈り取ったからむしの葉を落とし、茎の表皮と内側の木質部を取り除くことで、その間の靭皮（じんぴ）から繊維をとることができる。その繊維は、丈夫なうえに吸水性が高く乾きやすい性質を持っており、衣類や工芸品の素材として利用されている。

昭和村について

昭和村は福島県西部の会津地方に位置する。1000メートル級の山々に囲まれており、村の面積の8割はブナ林（落葉広葉樹林）となっている。また、冬期の積雪は２メートルに達することもあり、特別豪雪地帯に指定されている。野尻川・玉川・滝谷川の流域、標高 400 ～ 800 メートルの平坦地に 10 の集落があり、人口は 1264 人（2019 年８月１日現在）。高齢化率が 50パーセントをこえる過疎地域でもある。基幹産業は農業で、夏期の冷涼な気候に適したカスミソウの栽培は、夏秋期の栽培面積において全国１位の規模となっている。

昭和村のからむし栽培

昭和村のからむし栽培について、文書によって確認することができる最古のものは、1756 年（江戸時代中頃）に記された「中向からむし・青苧畑証文」（福島県立博物館蔵）である。また、1858 年に記された『青苧仕法書上』（喜多方市立図書館所蔵）からは、当時の栽培方法が現在のものと大きく変わらないことがうかがえる。つまり昭和村では、この 160 年に渡って栽培の方法が受け継がれてきたといえる。

戦前における養蚕の盛況、戦後の食糧難に応じた食料栽培への転換といった時期を経て、化学繊維の普及と着物需要の減少にともない、からむしの栽培は下火になってゆく。このような状況を受けて、1971 年に生産技術の保存を目的に「昭和村農業協同組合からむし生産部会」が設立され、1981 年には「からむし織技術保存会」が作られる。そして、1986 年には第１回からむしフェアが開催され（2019 年に第 34 回が開催）、この年から 1988 年にかけて、民族文化映像研究所による記録映画『からむしと麻』が制作される。1985 年にいたる20年の間に、からむしの生産高が四分の一にまで落ち込んだことを受けて、1990 年に「昭和村からむし生産技術保存協会」が発足。1991年に「からむし生産・苧引き」が選定保存技術に選定される。こうして昭和村は、今日に至るまで小千谷縮・越後上布（重要無形文化財、ユネスコの無形文化遺産）の原材料を提供し続けている。また、1994年に始まった「からむし織体験生」事業をはじめ、独自の取り組みを重ねており、近年では 2017 年に経済産業省から「伝統的工芸品」として指定を受けるなど高く評価されている。

映画「からむしのこえ」公式サイトより抜粋
「からむしのこえ」公式サイト： https://karamushinokoe.info/

会場

西郷地区公民館

〒680-1225 鳥取市河原町牛戸 15-1

※旧西郷地区公民館とは異なります。

■西郷周辺地図

■会場周辺地図

＜鳥取方面より車でお越しの場合＞
西郷小学校グラウンド臨時駐車場をご利用ください。
＜バスでお越しの場合＞
鳥取駅より日の丸バス南部幹線行き乗車→
「河原口」にて西郷線乗り換え→「中井農協前」下車
→中井農協前より西郷地区公民館まで徒歩約３分です。

ご予約先

西郷地区公民館

TEL：０８５８－８５－０４４５

※ 平日９：００-１７：００
※ 定員 50 名

新型コロナウイルス感染予防対策に
下記のご対応をお願い致します

＜マスクの着用＞
マスク着用の上でご来場いただき
講演中もマスクの着用を
お願い致します

＜ご来場時、退場時の手指消毒＞
館内にご用意しております消毒液で
手指等の除菌対応をお願い致します

＜ご来場時の体調について＞
ご来場の際は全てのお客様に
体温の計側をさせていただきます
※37.5 度以上の場合は
ご入場をお断りさせていただきます。

ご協力のほど宜しくお願い致します。

INFORMATION
一般社団法人 西郷工芸の郷あまんじゃく
（西郷地区公民館内）
TEL:0858－85－0445／ FAX:0858-85-0591
MAIL:cc-saigo@it.city.tottori.tottori.jp
西郷工芸の郷あまんじゃく

■主催：一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく
■共催：いなば西郷むらづくり協議会／鳥取県
■後援：鳥取市／鳥取商工会議所／鳥取市南商工会
令和２年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業
令和２年度 鳥取県工芸・アート村推進事業

いなば西郷
工芸の郷
315kougei
https://315amanjakuhp.wixsite.com/315amanjaku
mail: 315amanjaku@gmail.com